

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田 壽夫(記録、写真) 倉谷邦雄(写真)

日時：2017(平成 29)年 5 月 4 日(木) 9:30～15:30

気象：天候=晴、気温(13 時、「45 に-03」付近=19℃)

活動エリア：45 林班に-03 (支尾根近くの常緑樹優勢地域)

45 林班ろ-03 (谷近くのヒノキ植林地)

活動内容：モニタリング調査区の設定(2ヶ所)と現況調査

参加者：石原順子、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、中村賢三

計 6 名

<新しい役割り>

当会も一翼を担っている「森林・山村多面的機能発揮事業(林野庁)」では、新年度からの新たな実施項目として「**モニタリング調査**」が加えられた。これは 100 m²の「円形調査区」2ヶ所を選び林床整備や除伐などの手を加えながら**三年の間、毎年**の植生変化を観察していこうとするもの。活動はいよいよ「**実証的・学究的?**」な色彩も帯びてくる。今日の活動はその準備が中心。

<今日の活動>

小屋前で事務局長の斧田さんから「モニタリング」の主旨、方法などの説明を受けて、サア出発!。候補地はいずれも 45 林班地内。まず、小屋から地図上約 400m の距離を降り、尾根道脇の「**に-03**」に向い、**マツやサカキなど常緑樹が優勢な場所を選ぶ**。近くには中径のヤマザクラも数本育っている。

「円形調査区」を決めるには、最初に適当な中心木を設定し、これを中心に半径 5.65m の円(面積= $\pi \times r \times r$)を描くことから始まる。一人が伸ばした竿を片手に水平に円を描くように振る。他のメンバーは、円周内の立木の一本一本に太さ別に色の違うテープを巻いていき、最後にサイズ別にカウントする(計 166 本の立木を確認)。同時に、四方に調査区全体が見える撮影ポイントを決めておく。ここから撮る水平・上方の二種の写真で三年間の樹林相の変化を見る訳である。

———昼食・昼休み———

午後は植林地の「**ろ-03**」の谷に移動し、溪流近くに調査区を選ぶ。一帯は数年前に**間伐されたヒノキ林**で切り倒した木が乱雑に置き去りにされている。範囲の決め方は午前と同様で**径 33~19cm のヒノキ 9 本を確認**、定点観測位置は溪流寄りに右・中央・左の三ヶ所を設定。

終了後、残った時間で溪流を「**に-02**」の植林地の端まで下り、現況調査を行う。小規模の砂防施設も健在で、目立った崩れはない模様。

<一日を振り返って>

「調査区」は常緑樹が優勢なポイントとヒノキの植林地、これを今後どんな林に育てるか、そのために除伐や林床整備をどう進めるか、考えを共有しながら息の長い取り組みで、先の楽しみがまた一つ増えた。

<付録—生きものの記録—写真もお楽しみに>

椅子代りの玉切り材の上に食べ散らかした様なモミ(?)の実を発見。鳥か小動物の食卓になった?。今日もどこかで鹿に目白、四十雀(?)の鳴き声。

歳時記的に麓の村で空を泳ぐ鯉を探して見た。少子化の所為なのか、山に通い始めて4年になるがメッキリ数が減ったみたいで、登り口でようやく発見。ついでに川の魚も紹介しておく、麓の芥川では漁協が鱒釣り場を開いている。いつも結構な賑わいでこれも目に優しい風景。

(本文ー以上)



今日も安全第一



モニタリングの説明



釣竿を使って調査エリアの設定



現場で打合せ



調査区の立木本数調査＝テープ巻



昼休みの力試しー枯損木を押し倒す



植林地の調査区



溪流部の現況確認



モミ(?)の食べ殻



鯉幟



芥川